躍進する都留の新しい顔

国際化、情報化、そして高齢化へと、
21世紀を間近に控えて社会は大きく変貌しつつあります。
今、都留市では来るべき将来を見据えて
新たな開発・建設の槌音が轟き始めました。

自然に包まれた快適な住環境づくり

サン地開発

都留市は、全面積の約85%を山地が占めています。サン地開発のサンは、山地の山、自然を表す太陽のSUN(サン)、そして産業の産。この3つのサンは、いずれも都留市発展のキーワード、山地の有効活用・自然環境の保全・産業の育成は、都留市発展のための欠かせない条件と言ってよいでしょう。

このため、山と自然を守りながら豊かなまちづくりとして、「サン地開発」を推進しています。その具体的な成果として、玉川、平栗両地区に、住宅団地および住宅・工業団地の建設が進められています。菅野川の美しい清流に沿った「玉川団地」は、67区画。生活環境の整備された最適な住宅用街区となります。また、大幡川、加畑川を見下ろす山地を造成した「平栗団地」は、34区画の住宅地に工業団地を併設した団地で、市民への住宅供給ならびに産業振興に大いに寄与するものと期待されています。

さらに、盛里地区に建設を進めている市営住宅「朝日団地」も、1・2号棟に引き続き3号棟を平成元年度中に竣工するとともに、付帯設備として集会所なども建設し、均衡の取れた発展を図っていきます。

また、山地を有効活用する「サン地開発」の一環として、ゴルフ場開発などの民間活力導入を促進するほか、都市計画街路・土地区画整理事業の促進など、都市基盤の整備・充実に努めています。

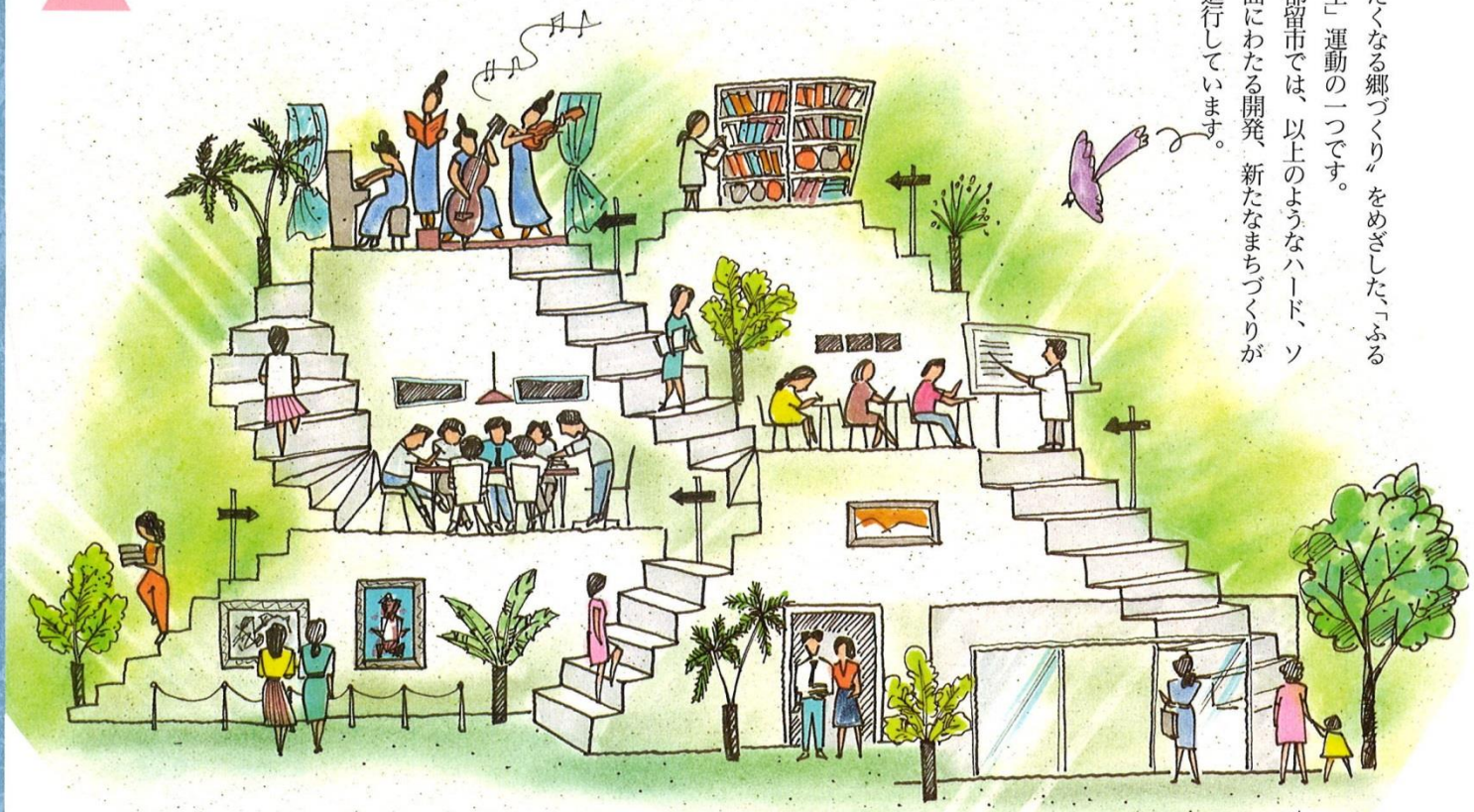
こうした、いわばハード面でのサン地開発に加えて、学術(Science)、美術(Art)、自然(Nature)、伝統(Tradition)、産業(Industry)の5本を柱にした〝SANTI・キャンパスタウン都留〟事業も進行中です。これは、広範囲にわたる市民のアイディアをもとにした文化事業で〝住みよい

A new face for the 21st century.

Our society, stepping into the 21st century, is rapidly changing through internationalization, dissemination of information, and the graying population. We have begun new development and construction with the coming future in mind, with the aim of establishing a more comfortable city that people want to live in.

・住みたくなる郷づくり〟をめざした、「ふるさと創生」運動の一つです。

今、都留市では、以上のようなハード、ソフト両面にわたる開発、新たなまちづくりが着々と進行しています。



文化・コミュニティー活動の拠点づくり

総合会館

地域社会が健全な発展を遂げるためには、経済的向上とともに文化的向上が大切な要素といえます。そこで現在、医療施設である市立病院の建設に次ぐ一大プロジェクトとして、市民の関心を集めているのが文化施設「総合会館」の建設事業構想です。

この総合会館は、県施設を含む総合的な文化施設として、かねてより検討してきましたが、昭和63年、東部地域・富士北麓地域における県立婦人会館の建設地が都留市に決定したのを機に、その具体案が浮上したわけです。

プロジェクトの概略は、現在の市民会館敷地と、付近の市有地などを活用し、平成2年度に完成する県立婦人会館と併せて、歴史・文化的活動の拡大、さらに産業面をも含めた複合施設を建設し、広範なコミュニティー活動の実践・交流の「場」にしようというものです。

そして、これらの内容を検討するために、今後、各界各層の市民で構成する機関を設けて、建設の具体化に向けて取り組んでいきます。

老人保健施設を併設した初の公立病院

市立病院・老人保健施設

健康はすべての市民が等しく願うことであり、市民生活を営むために不可欠な要素です。

このために、市民と各医療機関が一体となって、心身ともに健康を保持できる環境づくりが大切です。

急激な社会構造の変化と高齢化現象に伴い、医療需要は、今後ますます多様化し、増加する傾向にあります。

「高度な医療が、身近かで安心して受けられる病院を」そんな市民の期待に応えて、最新鋭の医療機器と優秀な医療スタッフを整備した地域医療の中核となる市立病院を、平成2年春の開院をめざし建設中であります。

また、市立病院に併設する老人保健施設は、公立病院では初めてのケースとして、本格化する高齢化社会を迎えるにあたり〝時代に先行する施設として〟市民をはじめ関係機関から大きな注目を浴びております。

このように病院・老人保健施設の完成により病気の早期発見、治療、さらにはリハビリテーションに至るまでの一貫した包括医療が確立されるものとして期待されております。

リニア、E電、駅舎

鉄道

今、わが国は、高度都市機能の一極集中を是正し、多極分散型国土の形成を図るため、地方都市の健全な発展が期待されています。21世紀交通網の主流となるリニアモーターカー実験線の誘致も具体化しつつあります。

首都圏域に位置する本市は、自然環境に恵まれた特色を生かす方策として、富士急行線へのE電の乗り入れを積極的に促進し、経済文化活動の発展を図りたいと思います。

また、名実ともに市の象徴となった都留文科大学の周辺整備の大きな懸案である富士急行線都留文科大学前駅舎の建設を早期に実現し、E電の乗り入れと合わせ都心に近い大学としてのイメージアップを図ります。なお、駅舎設置に合わせ駅周辺の区画整理を行い、大学を核とした「文教都市つる」の発展を目指したいと思います。

国道バイパス・中央自動車道インターチェンジ・中央自動車道側道の整備

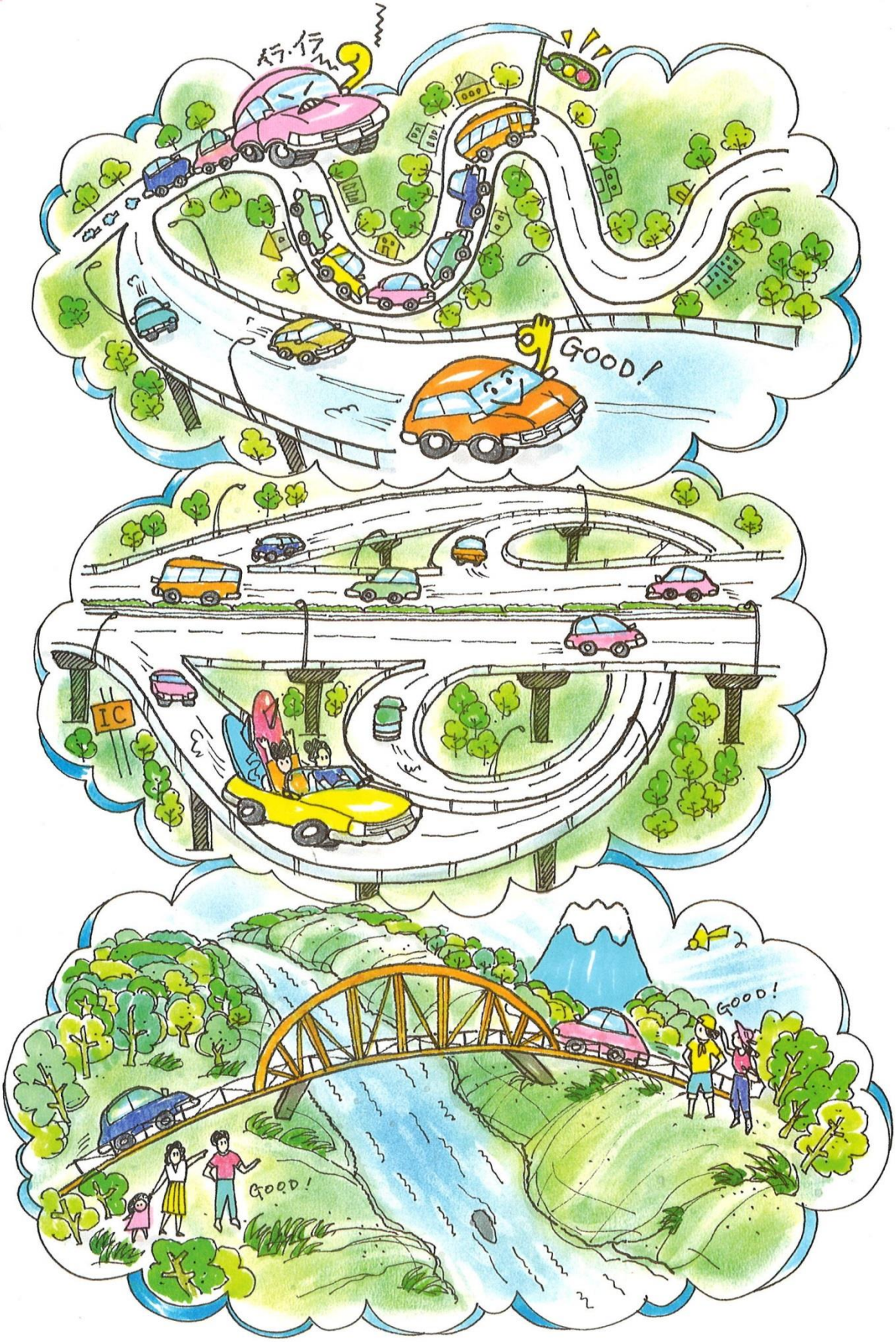
道路

20世紀後半、わが国陸上交通の主役となった自動車の急激な増加は、交通渋滞・騒音・振動公害・交通事故などわたしたちの生活環境に重大な影響を与えてきました。

21世紀に向けて市民の快適な生活を得るためには道路網の整備を行い、これらの問題を解決することが不可欠であります。

市では市内の幹線道路である国道139号線の交通渋滞の緩和など周辺住民の悩みを解消し、地域の開発を促進するためバイパスの早期全線開通を目指しています。

また、学園都市として都留文科大学があり、全国各地から集まった二千五百余名の学生が共に学び郷里と行き来していますが、今春開通した東富士五湖道路と直結する中央自動車道都留インターをフル・インターチェンジ化し、これら学生の利便性を高めるとともに東海近畿圏との経済・文化交流を促進して、市の振興発展に努めます。

なお、市民生活に直結する生活環境道路については、中央自動車道側道を整備し、これに伴う谷村橋他2橋の架橋などで通勤時間帯の交通緩和を図ります。

［躍進する都留の新しい顔］